

楽しい第2の人生

相澤病院呼吸器外科顧問 北野 司久

私は呼吸器外科専門医、同指導医、同特別会員、呼吸器学会（呼吸器外科系認定医、同指導医、同特別会員、呼吸器内視鏡学会専門医、同指導医、特別会員、胸部外科学会認定医などの資格をもつ者です。20年余り務めた総合病院を定年退職した後、癌拠点病院に手を挙げた現在の病院に乞われて第二の人生をスタートしました。

私は松本市の病院を選んだ理由は、信州の山が好きだからです。上高地で開催された医学生サマーキャンプ（昭和34年信大医学部担当）に参加したのが動機で、学生時代に表銀座（燕岳↓槍ヶ岳）・裏銀座（鳥帽子岳↓槍ヶ岳）コースを登りました。最近では登山よりもウォーキングで、里山風景

の写真撮影を楽しんでおります。作品は、松本医師会の写真展に毎年出品して入選しており、平成24年度は最優秀賞をとりました。普段肉眼で見える風景も、レンズを通して見ると、その息吹が聞こえます。また、水辺の玉ボッチ撮影には、日差しの刺入角が重要な因子になります。このようにして、職場でのストレスをカメラで解消している現状です。

信州には、祖先神や自然神を崇拝する民間信仰の浸透が普及しています。穂高神社・諏訪神社が歴史的に有名で、次のような神社祭や御柱祭などが有ります。**穂高神社祭**…7年目毎に3個の小神殿を新築し、深夜に御霊を新しい神殿に移すお祭りが有名で、神社の奥の院は遠く、上高地の奥の明神池にあります。昔は広大な領地を所有していたことが分かります。

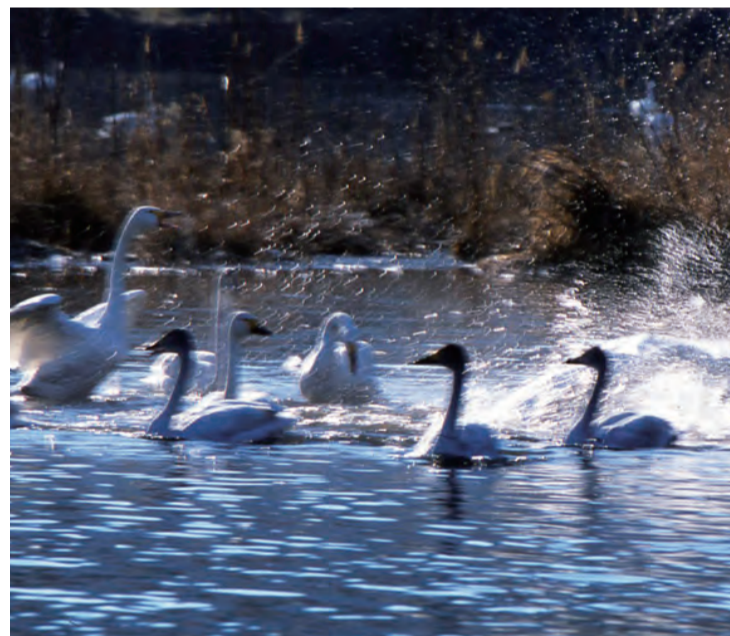
御柱祭…四柱神社の形態をとっているのが、神社には4本の柱が必要で、これを山から切り出してきま



写真①

す。住民が掛け声や木遣歌を歌いながら綱を曳いて、各神社に向かいます。そして、4隅に柱を立てるお祭りです。**御神渡り**…諏訪湖が凍結してできる氷の亀裂を「神の跡」として鑑定する拝観式が、諏訪神社の宮司によって行われて、その年の世相と作柄を占うものです。毎冬に凍結した湖上で行われる古式ゆかしい神事です。

ダイヤモンドダスト…貝殻を粉にしたようにキラキラと輝く雪の結晶のことで、零下10度を切ると発生するようです。私の初体験は、アメリカ留学時代（1969〜72年）の冬季でした。Xmasパーティーに参加するために、車を降りて友人宅を探していたら、息子（幼稚園）が寒さで歩けなくなり、慌てて車に戻り、親爺だけで探して見つけ、無事に家族皆がゴールインできました。この厳寒の夜を思い出します。信州の高原にも、これがあることを知りました。



写真②

霧氷・樹氷・川霧・池霧…信州の寒さを表示する指標の楽しい風物詩です。降る雪も、ボタン雪ではなく、粉雪で軽く、強い風によって深い雪だまりが出来ます。駐車場では注意する必要があります。自宅前の除雪はスコップで掻くのではなく、箒で掃く感じです。夜に降った雪は、各家が早朝に除雪する習慣になっているようです。

冬鳥の代表格のコハクチヨウ（写真②）…私が毎冬に待っている鳥で、11月下旬ころに渡来し、3月中旬ころに北帰行となる。初飛来があると、新聞に写真が掲載されるので、私の写真撮影がスタートします。カメラと三脚を抱えて、犀川にある白鳥湖や御殿田池に出かけます。私のコハクチヨウ熱は、滋賀県に勤務地があった頃から初症し、琵琶湖東岸の湖北町草津市にかけて車を飛ばしていった10年余の経歴があります。琵琶湖では20〜30羽の二桁でしたが、信州の犀川では多くて三桁の数になります。早期に、ねぐらから餌場に飛ぶシーンを撮るのが目的です。同好の士のカメラマンが集まって来ます。この時に撮った躍動感のある写真を、今年の年賀状に選びました。

女子スピードスケートの小平奈緒…相澤病院のマスコットガールで、500、1000、1500mが得意種目で、平成24年度のスピードスケート選手権大会に大会新で二連覇しました。つまり、自分で作った大会記録を更新した訳で、スピードスケート界の女王と言われ、今年も体調も良いようです。トレーニングで大腿部も太くなったと聞いています。後1年をきったソチオリンピックまで、体調をキープしてもらいたいものです。



写真③

写真は、前回のバンクーバーオリンピック大会の団体追い抜き（パージュート）で取った銀メダルで、三人娘の一人が小平でした。病院で開催された祝賀パーティー席上で撮った写真です。小柄ですが若さ溢れる明るい性格で、職員全員から好かれ応援されている彼女です。私もファンの1人で、彼女がソチ大会に選ばれれば、病院からの応援団に参加したいと考えています。ソチ大会では5位（500m）に入賞しました。

病院の勤務医としての仕事を始め、趣味としての野鳥・里山風景の写真を撮って楽しい日常生活を過ごしています。今年の仕事目標は「大綱法」を書くことです。